



農村暮らし 市町別ガイド



桑名市 | 25 ページ



いなべ市 | 25 ページ



四日市市 | 25 ページ



松阪市 | 25 ページ



津市 | 26 ページ



多気町 | 26 ページ



明和町 | 27 ページ



大台町 | 27 ページ



玉城町 | 27 ページ



伊勢市 | 28 ページ



鳥羽市 | 28 ページ



志摩市 | 28 ページ



大紀町 | 29 ページ



度会町 | 29 ページ



南伊勢町 | 29 ページ



伊賀市 | 30 ページ



名張市 | 30 ページ



紀北町 | 31 ページ



熊野市 | 31 ページ



御浜町 | 32 ページ



紀宝町 | 32 ページ

桑名市 「本物力こそ、桑名力。」

【INFORMATION】 人口(140,303人) 面積(136.68km²) 人口密度(1027人/km²)
第一次産業就業者比率(2.1%) 老年人口割合(25.0%) 主な地場産業(観光業、工業、農業)

「桑名で住みたい」と選ばれるまちづくりの取組を開始

産地ブランドの「トマト」

木曾三川の河口にある桑名市は、交通の要衝として栄えた歴史や文化が数多く残るまちであるとともに、北西部は養老山地、南東部は伊勢湾に面し、山と川と海に囲まれた水と緑に恵まれた地域です。

農業地帯は、丘陵地帯・伊勢湾に面した木曾三川と員弁川がつくる沖積平野、及び木曾川と長良川によってつくられた輪中に代表される低くて平坦な水郷地帯に区分されます。

立地条件を生かし、平坦部では水稻・麦を中心に花卉園芸やトマト・なばな等の野菜、丘陵地ではみかんやタケノコ等が生産されており、特に「トマト」と「なばな」はブランドとして定着しています。

新規就農希望者へは、J Aや県等関係機関と連携しながら、就農相談を行っています。



桑名市農林水産課 0594-24-1203

いなべ市 住んでいーな！来ていーな！活力創生のまち

【INFORMATION】 人口(45,815人) 面積(219.83km²) 人口密度(208人/km²)
第一次産業就業者比率(2.4%) 老年人口割合(25.6%) 主な地場産業(農林業)

緑の山々、広がる田園 四季を感じる癒しのまち『いなべ』で ゆったり田舎生活を送ってみませんか

竜ヶ岳からのいなべの田園風景

三重県の北の玄関口に位置するいなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈が走り、中央を流れる員弁川を挟んで田園地帯が広がる緑豊かなまちです。

なにより魅力的なのは元気な市民。まちの資源を見直し、新しい価値を生み出そうとする人が増えてきました。農業では、山々が生み出す清流を生かし、良質米やお茶、黒毛和牛の産地として知られています。また、冷涼な気候を生かして、そばの栽培が進められ、秋そばの収穫時期である11月には、毎年盛大に新そば祭りが開催され、多くの来場者で賑わいます。



【移住】 いなべ市 都市整備部 都市整備課 0594-74-5814
【就農】 いなべ市 農林商工部 農林振興課 0594-46-6306

四日市市 みんなが誇りを持てるまち四日市

【INFORMATION】 人口(311,031人) 面積(206.44km²) 人口密度(1507人/km²)
第一次産業就業者比率(1.6%) 老年人口割合(24.7%) 主な地場産業(農業、茶業、工業)

工業都市のイメージが強いですが 四日市は「農業」も活発です！

水沢地区の茶畑

本市は三重県北部に位置し、西に鈴鹿山脈、東は伊勢湾に面した自然豊かな地域です。市域の6割を農業振興地域が占め、都市近郊の特性を生かして多様な農業が営まれています。

米を中心に、転作作物としての小麦・大豆や、恵まれた立地条件を生かした伝統ある茶、ハクサイ・パレイショ・キャベツ・ダイコン・カブを中心とした露地野菜、施設を利用した花き・メロン・トマト・イチゴ、ネギ等の軟弱野菜などが生産されています。

新規就農者を対象に、施設等設備に係る初期投資費用の一部補助を実施し、経営立ち上げ時期の費用負担の軽減を図っています。また、市農業センターでは、就農に向けた農作物栽培技術の習得、訓練の場を提供し、新規就農を支援しています。



四日市市商工農水部 農水振興課 農水政策係 059-354-8180

松阪市 移住相談・新規就農相談・随時受付中！

【INFORMATION】 人口(163,863人) 面積(623.66km²) 人口密度(263人/km²)
第一次産業就業者比率(4.2%) 老年人口割合(28.1%) 主な地場産業(農業、畜産業、漁業、林業、茶業)

松阪牛のふるさとのまちで就農しませんか？

山間地に広がる田園風景

松阪市は三重県のほぼ中央に位置し、西部が山間地・中央部は丘陵地で東部一帯には伊勢平野が広がっています。名所旧跡が多数あり、かつ農業も盛んで、全国に名高い松阪牛産祥の地として知られています。水田農業が効率的に営まれ、小麦・大豆は県内第1位の生産面積を誇ります。市内西部の飯南・飯高地域は県内有数の茶産地で、上質な深蒸煎茶が生産されています。当地域の深野地区では石積み棚田が保全管理され棚田百選に選定されています。また、当地域には「空き家バンク制度」もあり、移住した際の家屋改修やリノベーションの補助も充実しています。就農希望の方には農地の斡旋や国の青年就農給付金制度を活用した支援も行っています。



【移住】 松阪市 飯南地域振興局 地域振興課 0598-32-2511
【就農】 松阪市 産業経済部 農水振興課 0598-53-4116

津市で農業を始めたい方を全面的にバックアップ！

三重県の中央部に位置する津市は、県都として行政機関を中心に多様な都市機能が集積しています。また、白砂青松の面影を伝える長い海岸や美人の湯として知られる榊原温泉、映画の舞台にもなった美杉地域の癒しの森など多種多様な自然を楽しむことができます。

高速道路や鉄道、中部国際空港への海上アクセスなど交通アクセスにも恵まれ、大学や短期大学といった高等教育機関・大学病院などの医療機関・博物館や美術館といった文化施設など、様々な都市機能が集積する便利で住みやすいまちです。市民アンケート調査でも回答者の87%が津市に住み続けたいと回答しています。

市内では、温暖多雨な気候と豊かな大地を活かし、様々な農産物が栽培されています。津市では食の安全と市民の暮らしを支えるため、意欲ある担い手の確保・育成や、生産者が農業経営をしやすい環境づくりに取り組んでいます。また市内で生産される農林水産物の消費及び生産拡大を図るため、ブランド化と地域内外への情報発信にも取り組んでいます。今後、津の農林水産物の魅力をPRするキャラクター「つ乃めぐみ」が歌い踊りながら、インパクトたっぷりにプロモーション活動を展開していく予定ですので、ご期待ください。

新規就農支援としては、相談窓口を設け、J Aや県など関係機関とも連携しながら、就農を希望される方への情報提供や研修先の紹介などを行っています。
U I J ターン就職者には、津市独自の「ふるさと就職新生活応援奨励金」の制度もありますので、ぜひ一度ご相談ください。

津市農林水産部 農林水産政策課 059-229-3171



関係機関と連携した就農相談の実施

農業の基礎的知識の習得支援（市民農業塾）



多気町 「高校生レストラン」のまち多気町

【INFORMATION】 人口(14,878人) 面積(103.06km²)人口密度(144人/km²)
第一次産業就業者比率(11.8%) 老年人口割合(31.6%) 主な地場産業(農業)

多気町独自で青年就農給付金(150万円)
にプラスして更に90万円を上乗せ！

三重県のほぼ中央に位置する多気町は、伊勢本街道・和歌山別街道・熊野街道と三本の旧街道が通る、古くから人々の往来が活発な土地です。
平成14年にオープンした高校生レストラン「まごの店」は、相可高校・五桂池ふるさと村・多気町の産学官が協働して実現したもので、生徒のきびきびした姿や美味しい料理が話題を呼び全国から多くの観光客が訪れています。

雪がほとんど積もらない過しやすい気候で、里山と里川、田畑に囲まれた自然豊かな環境です。また、中心には商業地があり、生活の利便性もよい町です。交通アクセスも良好で、車では、高速道路を利用して名古屋まで90分・伊勢神宮まで30分、公共交通機関ではJR多気駅を利用でき、津市・松阪市・伊勢市など、三重県中南勢地域が広く通勤圏内に入ります。

農業では、江戸時代から栽培されている特産の伊勢芋や、前川次郎柿を筆頭に、伊勢茶・米・いちご・トマト・椎茸などの多様な野菜が生産されているほか、松阪牛の肥育も盛んです。

現在、「食のまち多気」で新たに農業にチャレンジしていただける方を募集しています。多気町特産物の収穫体験や新規就農者との交流をしていただける農業体験を実施しているほか、就農開始時の不安を払拭するため、多気町へ移住する40歳以下の方などを対象に、国からの補助（青年就農給付金：最大150万円）に加え、多気町独自で90万円を2年間補助するサポートを行っています。

また、農地や空き家の取得に向け、農地の斡旋や空き家バンクの制度の紹介などにより、きめ細かく相談に応じます。



多気町の特産物「伊勢芋」の継承を目指した実地研修

特産の「前川次郎柿」



【移住】多気町 企画調整課 0598-38-1124

【就農】多気町 農林商工課 0598-38-1117

明和町 明和町で「快適な農村暮らし」をしてみませんか？

【INFORMATION】 人口(22,586人) 面積(41.04km²) 人口密度(550人/km²)
第一次産業就業者比率(6.8%) 老年人口割合(29.1%) 主な地場産業(農業、漁業)

「農村暮らし」と「快適な生活」が両立できます！

明和町は三重県のほぼ中央、松阪市と伊勢市の間に位置しており、気候は温暖で冬でも降雪はほとんどみられず、広大な平地を活かした稲作を中心としながら、施設野菜、畜産業など多様な農業が営まれています。

伊勢湾に面している当町では漁業も盛んに行われており、ひじきや海苔、貝類といった水産物が水揚げされています。

農業振興施策としては、水田における麦、野菜等の生産や6次産業化（農水産物の生産～加工～販売を1事業者で行うこと）の支援を目的とした当町独自の補助金制度があり、多くの農家にご活用いただいています。

また、県やJAなどの関係機関と連携したサポート体制を整備し、丁寧な就農相談等、きめ細やかなサポートに努めています。

さらに、人口減少の抑制、地域活性化を目指す「地方創生」施策の一環として、地域の大学と連携した新たな特産品（日本酒）の創出にも取り組んでおり、学生や地元酒蔵、農業生産法人などが連携し、酒米づくりから新たな農業の取り組みを進めています。

当町は主要道として北部に国道23号、南部に県道37号が横断しており、鉄道は近畿日本鉄道が通り、町内に2駅を有しています。車・鉄道で名古屋へは約100分、県庁所在地の津市へは30分と都市部へのアクセスは良好で、町内には大型のショッピングセンターもあり、生活面で不便さを感じることなく、農村暮らしと快適な生活を両立していただけます。

明和町は、農村暮らしのようなスローライフに憧れながらも、田舎の利便性の悪さから今ひとつ移住に踏み切れないような方にぴったりの町ですので、みなさまからのお問い合わせをお待ちしております！



明和町の広大な水田

地域の大学と連携した取組を実施中！



【移住】明和町 防災企画課 0596-52-7112

【就農】明和町 農水商工課 0596-52-7118

大台町 町全体がユネスコエコパークの大台町で 自然にやさしい農業を

【INFORMATION】 人口(9,557人) 面積(362.86km²) 人口密度(26人/km²)
第一次産業就業者比率(8.4%) 老年人口割合(39.8%) 主な地場産業(林業、茶業)

世界が認めた自然の中で農業をしよう

大台町は三重県の中南西部に位置し、清流宮川と紀伊の山々に抱かれた自然あふれる町です。平成28年3月には、大台町と奈良県の1市5村に及ぶエリアが「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」に拡張登録され、大台町全域がユネスコエコパークとなりました。

この豊かな恵みを活かし、主に兼業農家により、稲作・畑作が営まれているほか、数少ない専業農家は、香り豊かな「大台茶」の生産や全国に誇るブランド和牛「松阪牛」の肥育にも取り組んでいます。町では、新規就農に特化した支援制度はありませんが、道の駅に野菜を出荷することを条件にハウス整備や農業機械購入の支援を行っています。加えて農林漁業体験民宿等設備に対する支援や移住・定住のための空き家改修支援も行っています。

【移住】大台町 企画課 0598-82-3782

【就農】大台町 産業課 0598-82-3786



大台町の大杉谷地区にある現在入居者募集中の空き家

玉城町 「ずっと暮らしたくなるまち玉城」 の仲間になりませんか？

【INFORMATION】 人口(15,431人) 面積(40.91km²) 人口密度(377人/km²)
第一次産業就業者比率(7.2%) 老年人口割合(25.9%) 主な地場産業(農業、製造業)

まち・ひと・しごと…バランスがとても心地よいまちです

県南部の伊勢平野に位置する玉城町では、温暖な気候を活かし、お米をはじめ、いちご・柿・梨・ぶどう・かぼちゃ・キャベツなどたくさんの作物が栽培されています。平坦な土地柄から鳥獣被害は少なく、周囲に急な山や海はないため安心して暮らせるまちです。

世界遺産熊野古道伊勢路や伊勢神宮へつながる街道が交わり、目を少し外に向けてと昔ながらの「田舎の夏休み」を想起させる田園風景が広がります。

町中をオンデマンドバス「元気バス」が無料で走り、お出掛けをサポートしながら最先端のICTにより健康を見守っています。

歴史文化・伝統にふれ子どもから大人までイキイキと暮らせる、そんな素晴らしい田舎暮らしを満喫しつつやりがいを持って働くことができる、それが私たち自慢の玉城町です。

玉城町役場 総合戦略課 0596-58-8208



伊勢市 お伊勢さんで就農してみませんか？

【INFORMATION】 人口(127,817人) 面積(208.35km²) 人口密度(613人/km²)
第一次産業就業者比率(3.2%) 老年人口割合(29.4%) 主な地場産業(観光業、農業、水産業)

特産物の生産者を募集中！

伊勢市は三重県南部に位置し、古くから「お伊勢さん」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。

市の中央には清流日本一に輝く宮川が流れ、比較的温暖な気候の中、農業が営まれています。平野部では稲作のほか、県内1位の生産量を誇る青ねぎやいちご等の野菜類、高品質な施設花きのバラなどが栽培されています。山間部では市の天然記念物の蓮台寺柿や三重のバイオトレジャーに認定された横輪いもが生産されています。

また、名古屋・大阪とのアクセスも良く、高速道路を利用すると名古屋から90分、大阪から120分となっています。歴史が息づく、自然豊かな環境で就農してみませんか？

【移住】伊勢市 情報戦略局 企画調整課 0596-21-5510

【就農】伊勢市 産業観光部 農林水産課 0596-22-0370



伊勢の特産物「青ねぎ」の栽培風景

鳥羽市 真珠のようにきらりと輝く鳥羽で農業を始めてみませんか？

【INFORMATION】 人口(19,448人) 面積(107.34km²) 人口密度(181人/km²)
第一次産業就業者比率(12.9%) 老年人口割合(35.2%) 主な地場産業(漁業、観光業)

鳥羽みかんや果樹の新規作物を栽培したい生産者を募集中！

三重県東部の志摩半島にある鳥羽市は、市全体が伊勢志摩国立公園に属し、温暖な気候に恵まれています。農業は小規模ではありますが、水稲をはじめ、様々な野菜や果樹が栽培されています。また、農水産物直売所「鳥羽マルシェ」では生産者が直接農作物を持ち込み、委託販売できる仕組みを設けております。

現在、当市では、鳥羽みかんの農家を支援いただく地域おこし協力隊を募集しています。協力隊に就任いただいた方には、みかんの農作業支援や地域資源の情報発信にご協力いただきます。ご希望の方には、住居等の確保などにきめ細かく対応させていただきますので、お気軽にご相談ください。なお、協力隊が決まりましたら募集は終了します。

【移住】鳥羽市 企画財政課 移住・定住係 0599-25-1227

【就農】鳥羽市 農水商工課 0599-25-1231



鳥羽みかん栽培風景

志摩市 温暖な自然あふれるまちでおいしい食材に出会えます

【INFORMATION】 人口(50,341人) 面積(503.41km²) 人口密度(281人/km²)
第一次産業就業者比率(10.2%) 老年人口割合(37.4%) 主な地場産業(漁業、観光業)

特産品干し芋「きんこ」の生産に挑戦してみませんか？

志摩市は、四季を通じて温暖な気候で、陸域全域が伊勢志摩国立公園に指定され、美しく豊かな海と山の自然に恵まれた地域です。産業では、豊かな食材を生み出す農林水産業と美しい景観を活用した観光関連産業が特徴です。農業では、米多様な野菜、イチゴ、メロンなどの栽培が特徴で、特に特産品で志摩ブランドに認定されている干し芋「きんこ」は、人気が高い商品です。市では「きんこ」の生産量増加を図るため、芋の栽培から加工までを実践できる「きんこ塾」を開校し、「きんこ」の生産拡大に力を入れています。また、「きんこ」以外でも農協が主体となった農業塾「なごみ」で露地野菜の基礎を学ぶことができます。

【移住】志摩市 政策推進部 総合政策課 0599-44-0205

【就農】志摩市 産業推進部 農林課 0599-44-0288



志摩の特産品「きんこ」

伊勢地域（伊勢市・度会郡）関連情報

あぐりん伊勢 これから農業に挑戦したい方、興味のある方歓迎！！

働きながら青ねぎ等の栽培技術を習得しませんか？

新規就農者の育成と産地維持・遊休農地の解消を目的に、平成24年にJA伊勢100%出資子会社として(株)あぐりん伊勢は設立されました。

新規就農を目指す研修社員は、2年間の勤務で青ねぎ等の栽培技術などを習得し、就農を目指します。現在は、4名の研修社員が就農を目指して働いています。

就農時にはJA伊勢が責任をもって農地の幹旋、制度資金申請のお手伝いをさせていただきます。また、就農後も、部会員、営農指導員、普及センターが全面的にサポートいたします。

JA伊勢 営農部 営農企画課 0596-62-2281



就農に向け、日々研修に励む研修生

大紀町 海・山・川を感じる暮らしを求めて

【INFORMATION】 人口(8,939人) 面積(233.32km²) 人口密度(38人/km²)
第一次産業就業者比率(9.8%) 老年人口割合(45.3%) 主な地場産業(漁業、林業、農業)

子育て世帯応援！エンジェル手当など手厚い施策

三重県の中央南部に位置する大紀町は、南部は雄大な太平洋を望み、中央には一級河川の宮川や大内山川、藤川が流れ、海・山が織りなす自然はとても豊かです。
平均気温は16℃前後と県内でも比較的温暖な地域ですが、大台山系に囲まれた山間部の冬季は冷え込みが厳しく、また平均降水量が2,900mmを越える全国屈指の多雨地帯です。

沿岸部の錦地区には漁港があり、真鯛やブリの漁業が盛んで、特にブリのシーズンにはひと際活気で賑わいます。

一方、山間部の七保地区では、日本一の銘柄和牛「松阪牛」となる七保牛の肥育が盛んで、松阪肉牛共進会においても高い評価を受ける肥育農家が15戸あります。

また、大内山地区では「良質な牛乳は健康な牛乳から」を合言葉に、大切に育てた乳牛から搾った生乳を原料に、成分無調整牛乳やヨーグルト・牛乳プリン等の乳製品が製造され「大内山牛乳」としてブランド化されています。

そのほか、清流が育むお茶や稲作、椎茸などの特産林産物の栽培や、狩猟したシカやイノシシのジビエ活用も行っています。

本町は、JR紀勢本線や、国道42号に加え、紀勢自動車道も整備され、名古屋及び大阪から車で90分、三重県の県庁所在地津市から車で60分と、町内に2つのインターチェンジがありアクセスも良好です。

また、子育てを応援するため、エンゼル手当として、出生一時金や給食費の補助・通学費補助・放課後児童クラブなど県内でもトップクラスの子育て施策を行っています。移住や新規就農者の受け入れ体制はまだ未熟ですが、出来る限りのサポートをさせていただきます。

【移住】大紀町 企画調整課 0598-86-2214

【就農】大紀町 農林課 0598-86-2246



七保牛

阿曾地区の風景



度会町 清流「宮川」が流れる自然豊かなまちで、田舎暮らしを始めませんか？

【INFORMATION】 人口(8,309人) 面積(134.98km²) 人口密度(62人/km²)
第一次産業就業者比率(5.2%) 老年人口割合(31.8%) 主な地場産業(農林業)

関係機関が一体となって、就農サポートを行います

県南部に位置する度会町は、東に伊勢平野を望み、西の大台山系を源流とする清流「宮川」が町のなかを流れています。川沿いには茶畑が広がり、日本一の清流から立ち上る朝霧が、滋味濃厚で深い香りが自慢の伊勢茶を育んでいます。

本町は名古屋から車で100分、三重県の県庁所在地の津市から車で45分の距離にあり、自然豊かで災害の少ない安全な町です。

伊勢志摩地域の観光スポットにも近く、町内ではSUP（スタンドアップパドルボード）やラフティングなど川のレジャーをはじめ、登山やハイキングなどが気軽に楽しめます。

移住相談、新規就農相談の窓口が連携し、田舎暮らしのサポートをさせていただきます。

【移住】度会町 政策調整課 0596-62-2423

【就農】度会町 産業振興課 0596-62-2416



新茶シーズンの茶摘みの様子

南伊勢町 潮の香りがするみかんの町

【INFORMATION】 人口(12,788人) 面積(241.89km²) 人口密度(53人/km²)
第一次産業就業者比率(21.6%) 老年人口割合(49.1%) 主な地場産業(漁業、農業、林業)

みかん農家の担い手確保のため「みかんの学校」を開催

伊勢志摩地域の南側沿岸に位置する南伊勢町は、漁業と農業が基幹産業の町です。
農業では温暖な気候を生かし、海岸沿いの日当たりの良い斜面で、みかん・梅・中晩柑類等が栽培されています。鳥獣被害、後継者不足により柑橘生産者が減少傾向にあることから、担い手の確保のため、生産者・農協職員及び県農業改良普及センター職員が講師となり、みかん栽培の知識・技術の習得を目的とした「みかんの学校」を開催しています。これまでにみかん農家の後継者や新規就農者の方々等に受講していただいております。
ご興味がある方は、ぜひご参加ください。

【移住】南伊勢町 行政経営課 0599-66-1366

【就農】南伊勢町 水産農林課 0596-77-0007



みかんの学校の様子

ライフスタイルの選択肢が豊富な移住しやすいまち

伊賀市は、京都・奈良や伊勢を結ぶ大和街道・伊賀街道・初瀬街道を有し、都に隣接する地域として、また交通の要衝として、江戸時代には城下町や伊勢神宮参拝者の宿場町として栄えてきました。このような背景から、京・大和文化の影響を強く受けながらも、独自の文化を醸成しています。

また、伊賀流忍者や松尾芭蕉のふるさととしても知られ、多くの観光客が訪れます。

古琵琶湖層の肥沃な土地・淀川源流の清水・盆地特有の気候により育まれた「伊賀米コシヒカリ」は、お米の食味ランキング(日本穀物検定協会)にて5年連続「特A」の評価を受けています。また、国営事業で造成された青蓮寺用水地区の畑地では、アスパラガス・かぼちゃ・きゅうり・キャベツ・そば・たまねぎなど、多くの種類の野菜が栽培されています。

市内には、総合病院が2つ、大型スーパーがあり、子育てでは、延長・一時保育、放課後児童クラブ、子育て支援センターによるサポートのほか、中学生までの医療費無料化、第3子以降の保育料無料化(※一部条件あり)などを実施しています。

あわせて、高速道路、鉄道、バスなどの交通網により都市部へのアクセスが容易であることも大きな魅力です。

豊かな自然のなかにありながら程よく便利な生活ができ、「まちなか暮らし」や「田舎暮らし」など自身にあったライフスタイルの選択肢が豊富なことなどから、A E R A(朝日新聞出版)の特集「移住しやすい街 110」において最高ランク三ツ星を獲得しました。

移住相談に総合的に対応するため、総合相談窓口(移住コンシェルジュ)を開設しましたのでお気軽にご利用ください。

【移住】伊賀市 地域づくり推進課 0595-22-9680

【就農】伊賀市 農林振興課 0595-43-2301



伊賀市の水田風景

伊賀市移住ガイドブック [iga-style] を発行しています



名張市 自然豊かで住み良いまちで 「農」ある暮らしを始めませんか？

【INFORMATION】 人口(78,795人) 面積(129.77km²)人口密度(607人/km²)
第一次産業就業者比率(2.2%) 老年人口割合(28.2%) 主な地場産業(農業、製造業、観光業)

暮らしのまち名張 豊かな農業ライフを全面サポート！

三重県の西部、伊賀盆地の南西部に位置する名張市は、豊かな水と緑に恵まれ、周囲を山野や赤目四十八滝や香落溪といった渓谷を含めた美しい自然に囲まれており、四季折々の鳥の鳴き声などの自然の音を感じながら暮らすことができます。また、本市は大阪から電車で約60分、名古屋から約90分と都市部からのアクセスも良好で、自然豊かな環境で暮らしながら多様な働き方を実現できます。

平均気温は約15℃、盆地特有の寒暖差の大きな気候であり、肥沃な粘質土壌と清らかな水を活かし、良質な農産物生産に適しています。

特に、本市で広く栽培される伊賀米コシヒカリは、日本穀物検定協会の食味ランキング最上位の「特A」の評価を5年連続で獲得し、ブランド品として認知されています。

その他にも、三重ブランドに認定されている伊賀牛や美旗メロン・ぶどうなど、魅力のある良質な農産物が生産されています。

本市には、先進農家11名(有機野菜、施設・露地野菜、水稻、果樹等)が就農サポートリーダーとして登録され、栽培に関する技術の習得だけでなく、農地銀行制度や空き家バンク制度等を活用し、農地・住居の確保などの相談にもきめ細かく応じています。

また、本市では新規就農者同士の交流会を開催するなど、新規就農者同士の情報交換・交流の場を設定し、地域の担い手として定着できるよう環境づくりに努めています。

移住相談・新規就農相談それぞれの窓口が連携し、きめ細かく農村暮らしの実現に向けサポートさせていただきます。

【移住】名張市 企画財政部 地域活力創生室 0595-63-7782

【就農】名張市 産業部 農林資源室 0595-63-7625



名張市の主な特産物

名張市の特産物 ぶどう狩りの様子



若手農林水産業者の新たなチャレンジを行政がしっかりサポート！

三重県南部の紀北町は、黒潮踊る熊野灘と日本有数の原生林が残る大台山系を擁する自然の宝庫です。農林水産業では、ソウルフードのくき漬けやブランド米の生産をはじめ、高度な技術を誇る「尾鷲ヒノキ」の育林、鯉・鯖等の一本釣漁業やまき網等の漁業も全国的に高い評価を得ています。

若者の都市部への流出や高齢化が進む現状はあるものの、近年、地域内外から新たに農林水産業に参入する若者も増えてきています。

県内でも珍しく、農業・林業・漁業の枠を超えて、20代～40代の若手生産者が共同で実行委員会を設立し、「地域内に新しい元気な風を吹かす」という熱い思いを胸に秘め、様々な「こだわり」を持った生産者の見本市である「海・山こだわり市」の定期開催に取り組んでいます。

若手生産者による元気な取組は、紀北町の農林水産業を牽引し、トマトジュースや卵、椎茸など多くの紀北町産の農林水産物が伊勢志摩サミットの食材として採用され、世界中にその魅力が発信されるきっかけとなりました。

また、紀北町産FSC認証材の「尾鷲ヒノキ」が、首脳会議用の円卓に使用されました。

このように、多彩な魅力のある農林水産業へのチャレンジを、行政がしっかりサポートさせていただきますので、こだわりの農林水産物と、素敵な人に会いは、是非、紀北町にお越しください。

また、カッコイイ農林水産業を発信するため、若手生産者の横顔を紹介するポスターや映像を作成し、紀北町のホームページやYouTubeに公開していますので、是非ご覧ください。

【移住】紀北町 企画課 0597-46-3113

【就農】紀北町 農林水産課 0597-46-3116



若手生産者（海・山こだわり市メンバー）

町内農業体験を経て就職したIターン者



新規就農や移住に手厚い支援・サポートが魅力です

県南部に位置する熊野市は、熊野古道をはじめ、鬼ヶ城・獅子岩・花の窟などを有する世界遺産の町です。紀伊山地の急峻な山地やリアス式海岸、七里御浜からなる熊野灘など、変化に富んだ地形を有しています。また、棚田百選に選定された「丸山千枚田」があり、農村の美しい原風景が継承されています。

年間平均気温は17℃と温暖な気候で、海岸部の日当たりの良い場所では、「温州みかん」などの柑橘が栽培されています。また山間部では水稻のほか、郷土料理「めはり寿司」の材料として欠かせない「たかな」が栽培され、「たかな漬」に加工されています。

農業のほか、海岸部では漁業が、山間部では林業が盛んです。

熊野市では、新規就農を目指すI・Jターンの方を対象に、施設園芸用設備の整備に要する費用の一部補助や、I・Jターン専用住宅の貸し出し、家賃補助（2年間まで）などの各種支援策を用意しています。

そのほか、柑橘での新規就農を検討されている方を対象に、熊野市も含めた1市2町・県・JA等が連携して、農業体験や先進農家での研修等を実施し、全面的に就農をサポートしています。また、トマトなどの施設野菜については、ハウスでの研修制度（最長2年）もあり、技術習得や農地の取得、施設の整備まで、切れ目なくサポートしています。

熊野市は平成25年の熊野尾鷲道路開通後、名古屋及び大阪から車で180分、三重県の県庁所在地津市から車で90分と、都市部からのアクセスも改善しています。移住相談・新規就農相談それぞれの窓口が連携し、きめ細かく、農村暮らしの実現に向けサポートさせていただきます。

【移住】熊野市 市長公室 0597-89-4111（内線313）

【就農】熊野市 農業振興課 0597-89-4111（内線483）



棚田百選にも選定された「丸山千枚田」



みえの伝統野菜「たかな」の栽培風景

御浜町 「年中みかんのとれるまち」で おいしいみかんを作ってみませんか？

【INFORMATION】 人口(8,741人) 面積(88.13km²) 人口密度(99人/km²)
第一次産業就業者比率(26.3%) 老年人口割合(37.5%) 主な地場産業(農業)

多くのIターン就農の先輩からアドバイスをいただけます

三重県南部に位置する御浜町は、紀伊半島を背に太平洋を望み、20数キロにわたって続く美しい七里御浜海岸の中間部に位置しています。世界遺産に登録された熊野古道の浜街道・横垣峠・風伝峠や棚田の里に壮大な朝霧が流れおちる「風伝の朝霧(さざり)」など、自然と歴史が織りなす美しい風景に彩られています。

平均気温17℃と温暖な気候や緩傾斜という立地条件を生かし、海岸部を中心に柑橘が栽培されています。柑橘の種類では、9月から10月にかけて収穫する極早生温州が多く、11月の早生温州・1月から5月にかけての中晩柑類・7～8月のハウスみかんと年間を通してみかんを収穫できます。

また、沿岸部では漁業、山間部では梅・水稻・畜産も盛んであり、その一部は御浜町のふるさと納税特産品となっています。

農業が盛んな当町では、新規就農者を随時募集しています。特に、基幹作物である柑橘については、農業体験や先進農家での研修等を実施し、全面的に就農をサポートしています。また、柑橘のほか、畜産や花卉も含め、先進農家7名が就農サポートリーダーとして登録され、栽培技術の習得だけでなく、農地・住居の確保などの相談にきめ細かく応じています。

本町は車で名古屋から180分、大阪から210分、三重県の県庁所在地津市から120分と、高速道路の延伸で都市部からのアクセスは良好になりました。農業体験を通じて本町の自然豊かな環境を実感していただけたと思います。

新規就農の相談にきめ細かく対応し、独立自営就農の実現に向けサポートさせていただきます。



温州みかんの園地



収穫直前の極早生温州みかん

御浜町 農林水産課 05979-3-0517

紀宝町 海・山・川の恵に抱かれ、 ともに輝き創造するまち 紀宝

【INFORMATION】 人口(11,207人) 面積(79.62km²) 人口密度(141人/km²)
第一次産業就業者比率(7.6%) 老年人口割合(33.9%) 主な地場産業(農業、工業)

若者定住、新規就農に手厚い支援があります！

三重県の最南端に位置する紀宝町は、東は七里御浜で熊野灘に面し、熊野川を隔てて和歌山県新宮市と接しています。町の一部が「吉野熊野国立公園」に含まれ、また、世界遺産の一部として、熊野川、七里御浜、御船島を擁し、悠久の歴史が育んだ自然が魅力の町です。

平均気温は17℃と温暖な気候で、町内の海岸部では多品種の柑橘が栽培されています。特に振興作物であるマイヤーレモンは当町を含めた紀南地方が日本一の生産量を誇ります。山間部では水稻が盛んで、主要銘柄のコシヒカリを中心に栽培されています。一部の地域では、農業の使用を半減した「レンゲ米」や、地域の風土を活かした米の栽培に取り組み、ブランド化も進めています。また、海岸部では定置網を中心に漁業も盛んです。

紀宝町では新規就農の支援策として一定条件はありますが、専業で農林水産業に就業する方を3年間支援する「農林漁業就業支援金」やI・Jターン者専用住宅を用意しています。また、紀宝町で柑橘での新規就農を検討されている場合は、県・他市町・JA等で構成する協議会での研修体制を整備しており、随時新規就農者を募集しています。他にも移住対策として空き家バンクもございます。

本町は車で名古屋、大阪から180分、三重県の県庁所在地津市から120分と高速道路の延伸で都市部からのアクセスも改善されてきております。新規就農相談の際には関係各所連携し、きめ細かく就農に向けサポートさせていただきます。



当町の特産品であるマイヤーレモン



道の駅「ウミガメ公園」のウミガメ

【移住】紀宝町 企画調整課 0735-33-0334

【就農】紀宝町 産業建設課 0735-33-0336

三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト ～みかんの新規就農者募集～

三重県最南端に位置する紀南地域（熊野市・御浜町・紀宝町）は、熊野灘に面し、冬でもめったに雪が降ることのない温暖な気候から、高品質なみかんの産地として知られています。高齢化などで農家が減少する中、後継者を確保するため、平成20年に、JA、市町、県が広域的に連携して「三重南紀みかんの里創生プロジェクト協議会」を立ち上げ、県内外から広くみかんの新規就農者を受け入れる取組を展開しています。果樹は植えてから収穫までに時間がかかるので、新規就農が難しいというイメージがありますが、当プロジェクトでは、現在栽培している園地を借り受けるので、1年目から農産物を収穫し、収入を得られることが魅力です。平成20年以降、59名が農業体験を実施し、そのうち11名が新規就農を実現し、みかんの担い手農家として活躍しています。

【就農に向けたプロセス】



【オレンジアグリで働きながら研修】

JA三重南紀が出資し平成27年に設立された「株式会社オレンジアグリ」では、新規就農者の確保・育成をめざして研修生の受入を行っています。モデル園での2年間の研修を経て、順次園地をのれん分けしていくことで、産地の担い手確保と耕作放棄地の拡大防止をめざしています。

【先輩の取組事例】

▶熊野市 鈴木さん：P20 ▶御浜町 仲井さん：P21 ▶紀宝町 岩崎さん：P22 をご覧ください



▶相談窓口 三重県 紀州地域農業改良普及センター 0597-89-6126

伊賀地域では、官民協働で移住・就農・定住環境づくりを進めています！

伊賀地域は、四方を山に囲まれた伊賀盆地に位置し、滋賀県、奈良県、京都府に接しています。盆地特有の寒暖差の大きい気候や淀川源流域のきれいな水を生かし、古くからおいしいお米が生産されており、当地域のコシヒカリは「伊賀米」として高く評価されています。

また、青蓮寺湖から水をひいている約500haの開畑地では、野菜生産やぶどうなどの果樹生産が盛んで、県外から移住された若者など、多数の新規就農者が活躍しています。当地域では新規就農者の受入拡大に向け、市・JA・農業高校・民間団体と県が連携して、移住・就農・定住ができる環境づくりに取り組んでいます。相談窓口のフロー図や支援策一覧など、各種支援ツールをご用意していますので、伊賀地域での就農にご興味のある方は、是非、伊賀地域就農相談窓口までご相談ください！

【先輩の取組事例】

▶伊賀市 伊賀有機農業推進協議会：P12.13 ▶伊賀市 田公さん：P14 ▶伊賀市 横田さん：P15 ▶名張市 鯨岡さん：P16 をご覧ください



▶伊賀地域 就農相談窓口 三重県 伊賀地域農業改良普及センター 0595-24-8115



農業への チャレンジを 応援します！

三重県で新しく農業をはじめられた青年の数は、平成 20（2008）年までは年間 50 人から 70 人程度で推移してきましたが、農業や農村の持つ魅力への関心が高まっていることや、県外から移住をして、農業を営む法人に就職される方が増えたことなどから、毎年 130 人を超える高い水準で推移しています。

平成 27（2015）年のデータでは、新たに農業をはじめられた 130 人の方のうち、約 7 割の方が農業を営む会社に就職されています。また、農家の出身ではない方が全体の約 8 割を占め、農家の子弟が農業を継ぐという形よりも、農外からの新規参入されるケースが多くなっています。

ご自分のライフスタイルにあわせて、自分らしい農業にチャレンジしてみませんか？

農業は十人十色・多様なスタイルがあります



① 自営就農

自分自身の判断で栽培する品目や販路を決め、計画に沿って農地の取得や施設整備を行い自立して経営するスタイルです。独立心旺盛で自分らしい農業を追求したい方にオススメです。

▶ 情報収集

就農フェアや
説明会等に参加

▶ 就農体験

短期～長期で
農業を体験
(P37 参照)

▶ 技術習得

・農業大学校
・青年就農給付金
(準備型) (P37 参照)

▶ 就農準備

・就農計画作成
・資金確保
・農地取得

【主な支援内容】

※青年就農給付金（経営開始型）の給付（最長 5 年）

※有利な融資制度の活用・施設・機械等を整備する際の融資残補助・みえの就農サポートリーダー制度（里親制度）

【相談窓口】（公財）三重県農林水産支援センター 担い手育成支援課 0598-48-1226

② 農業を営む法人に就職

近年、水田農業・園芸・畜産など幅広い品目で、株式会社などを設立して企業的経営を行う農業法人が増えてきています。このような法人では経営規模の拡大や経営の多角化に伴い、農作業管理や販売・事務など幅広い職種で求人募集しています。

法人に就職して、経験を積んでから独立するケースも増えてきています。農業に関心のある方はまず、求人情報をチェックしてみましょう。

【農業を営む法人の求人情報】

公益財団法人三重県農林水産支援センターでは、職業安定法第 33 条の許可を受け、三重県内で農林漁業にかかる職場で働きたい求職者に対し無料職業紹介事業を実施しており、ホームページに求人情報を掲載しています。また、他の職種と同様、ハローワークでも求人情報を検索していただけます。

【相談窓口】（公財）三重県農林水産支援センター 担い手育成支援課 0598-48-1226

③ 地域資源活用型ビジネスを起業（農家民宿・カフェなど）

農業を営みながら、自ら生産した農産物や地域の食資源などを用いて、農家民宿やカフェなどの交流拠点を営み、地域の活性化に貢献している事例も増えてきています。先輩の取組事例を参考に、ビジネス起業についても検討してみませんか？

【取組事例】

- ・Uターンの方が営む農家民宿が県内にたくさんあります ▶P36・37 をご覧ください
- ・カフェの起業事例：上木食堂（いなべ市） ▶P8 をご覧ください

【相談窓口】三重県 農山漁村づくり課 059-224-2518



① 就農体験の実施

農業の具体的なイメージをつかむために、先進農家で農業を体験してみませんか？

1泊2日の短期から1年間以上に及ぶ長期まで、多様な機会が設けられています。

【農林水産支援センターの研修事業】

実践的な仕事を体験していただくため、先進農家での短期研修（2～7日間）及び長期研修（2～10ヶ月）を実施しています。

研修生を受け入れている事業体の情報を提供していますので、研修を希望される方は、農林水産支援センターまでご相談ください。

▶相談窓口 **（公財）三重県農林水産支援センター 担い手育成支援課 0598-48-1226**

【市町やJAなど地域の取組】

みかんの先進農家で1年研修 ▶熊野市・御浜町・紀宝町：P33をご覧ください

青ねぎの研修（2年） ▶あぐりん伊勢：P28をご覧ください

1泊2日で農業を体験 ▶多気町：P26をご覧ください

鳥羽みかんで地域おこし ▶鳥羽市：P28をご覧ください

トマトなどの施設園芸を研修（最長2年） ▶熊野市：P31をご覧ください

② 三重県農業大学校

農業・農村リーダーとなりうる高度な専門知識・生産技術と実践力を備えた農業経営者を養成するため、三重県が設置している農業者研修教育機関です。

高等学校卒業生（予定者を含む）以上を対象とする養成科二年課程に加え、就農意欲の高い方を対象とする一年課程を併設しています。

また、6次産業化や有機農法など、新規就農者等を対象に各種専門研修も実施しています。

▶相談窓口 **三重県 農業大学校 0598-42-1260**

③ みえの就農サポートリーダー制度

栽培技術や農地・住居の取得、地域への溶け込みなど、新規就農者を地域で中心となってサポートしていただく先進農家等を、県が就農サポートリーダーとして登録する制度です。就農サポートリーダーにおいて研修を受けられた際は、青年就農給付金（準備型）の給付（年間150万円、最長2年）を受けることができます。

▶相談窓口 **三重県 担い手支援課 059-224-2354**

④ 認定新規就農者制度

新たに農業を始めようとする人が作成する青年等就農計画を市町が認定し、本計画の認定を受けた新規就農者に対して、重点的な支援を行う制度です。

【対象者】新たに農業経営を営もうとする青年等で、次の条件に該当する方

①青年（原則18歳以上45歳未満）

②効率かつ安定的な農業経営を営む者となるために活用できる知識・技能を有する45歳以上65歳未満の者

③上記の者であって、法人が営む農業に従事すると認められる者が役員の過半数を占める法人

▶相談窓口 **三重県 担い手支援課 059-224-2354**

⑤ 青年就農給付金制度

青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間（年間最大150万円・最長2年間）及び経営が不安定な就農直後（最長5年間）の所得を確保する給付金を給付します。

【主な給付要件】新たに農業経営を営もうとする青年等で、次の条件に該当する方

①就農予定時の年齢が原則45歳未満で、農業経営者となることに強い意欲を有すること。

②研修終了後1年以内に独立・自営就農または雇用就農または親元での就農が確実であること。

▶相談窓口 **三重県 担い手支援課 059-224-2354**

農林漁業体験民宿で 農村暮らしを 体験してみませんか！



農林漁業体験民宿は、農林漁業者の方が住宅を活用して開業する小規模の民宿です。農村暮らしの良さや農業を体験できることが魅力で、都市部の方に人気があります。

三重県には、県外から移住された方が営む民宿があり、農村暮らしの体験や移住の苦労話などを聞くことができます。農村への移住を考えたら、まずは、農林漁業体験民宿で農村暮らしを体験してみましょう！

津市 | 農家民宿なかや

愛知県一宮市出身の岩田さんご夫婦が営む「農家民宿なかや」は、築90余年の古民家を活用した体験型民宿だ。

岩田さんは、もともと転勤の多い職業に就いていたが、子供の就学に合わせ、築90余年の古民家に巡り会ったことをきっかけに津市美杉町への移住を決意した。

岩田さんは米作りを中心に農業を行いながら、民宿の宿泊者に米作りや木工、川遊びなど自然を生かした体験を通して、田舎暮らしの素晴らしさを伝えている。

都会で行き詰ったら、リセットするきっかけをつくり、自分を楽にする憩いの場として利用してもらえればと岩田さんはいふ。

美杉に移住した人達のネットワークもあり、田舎で暮らすことや移住についての相談にものってもらえる。



〒515-3312 津市美杉町上多気 1312

☎059-275-0205

営 素泊まり 4500 円

夕食かまど体験自炊プラン 5000 円

(BBQ も OK。1 組 3 名まで)

旬のお食事処美杉プラン 2300 円～ (1 名)

体験朝食 500 円 (1 名)

(基本は和朝食、お米パンの対応も可)

P あり

<http://www.zb.ztv.ne.jp/htf-iwata243120/>



● アクセス 一志郷野ICより約50分



大台町 | 山里民宿みくり

名古屋からリターンされた中江さんご夫婦が営む「山里民宿みくり」は、大台町（旧宮川村）の清流・宮川の支流、栗谷川沿いにある。平成18年、自宅の一部をリフォームし、三重県で初めて農林漁業体験民宿を開業した。

現在、WWOOF ジャパンホストにも登録されている。

食事のメニューは、鮎の塩焼き、鹿肉の燻製、山菜の天ぷらなどに、締めはご主人の手打ちそば。庭に建てた東屋で特製のテーブルを囲んでの夕食、話上手な中江さんが会話を盛り上げる。食事の後は満点の星空を眺めながらの五右衛門風呂。初夏にはホタルが飛び交う光景も。

中江さんにとっては、民宿はオーナーが自分のペースでお客さんをもてなすことを楽しみ、山里の暮らしの魅力を伝える場だという。その人柄にひかれ再々訪れるリピーターも多い。



● アクセス 大宮大台ICから約20分

〒519-2507 多気郡大台町栗谷 1026-1

☎0598-76-1337

営 1 日 1 グループ (8 名まで)

¥ 平日素泊まり 1 人 4000 円

金・土曜。祝前日 3 割 UP

調理体験夕食 1500 円 朝食 500 円

ランチ (5 名以上・要予約) 1000 円～ 1500 円

P あり

<http://web-odai.info/asobu/mikukawa.html>



熊野市 | 農家民宿やまもと



退職後に大阪からリターンされた山本さんご夫婦さん営む「農家民宿やまもと」は、海・山・川の大自然を満喫できる熊野市にある。

道路から 100m 程度離れているので、夜になると通り過ぎる車の音も届かず、人工的な明かりも見えない。ときおり聞こえるのは鹿や雉の鳴き声、見上げれば夜空のきらめき、都会から訪れた人は、普段の暮らしと全く別の空間に身を置いていることを実感する。夜が明けたら山歩き、川遊び、魚釣りに山菜とり、野菜づくりが体験できる。オーナーの山本さんは、野菜作りをしながら農家民宿やまもとを開業した。農家民宿を一つの場として都会の人に「もう一つの生活スタイル」としての田舎暮らしを体験してもらい、都市と地方の関係を変えていきたいと、山本さんは考えている。地域の案内や移住の相談にも対応してもらえる。

〒519-4564 熊野市飛鳥町佐渡 450

☎090-6817-8041

営 1日1組限定（定員6名）

¥ 素泊まり 3000 円

料理体験夕食 1500 円

朝食 500 円

P あり

<http://www.seikou-udoku.com/>

<http://seikou-udoku.blog.jp/>



● アクセス 熊野大泊ICから約15分



多気町 | つじ屋



神奈川より移住された高梨さんご夫婦は、多気町の集落の中にどっしりと身を構える、築約 180 年の歴史ある大きな古い町家を改修して 2015 年に体験民宿「つじ屋」を開業した。「つじ屋」は、食事の提供や雑貨販売、時には町の人々の交流の場としても使われるあたたかな民宿へと変身をとげた。

高梨さんご夫婦は、自ら米や野菜を栽培し、鶏を育てながら、お金に頼りすぎない持続可能な暮らしを続けている。生活に使う火も自給自足というから驚きだ。宿泊の際に楽しめるかまどで炊くご飯や五右衛門風呂などの昔ながらの営みも、二人のそういった考えが息づいている。

持続可能な暮らしに関心のある方の移住相談にも応じている。

〒519-2216 多気郡多気町古江 1282

☎0598-49-4667

営 喫茶・雑貨 水～土曜 12:00～17:00

宿の利用については要問合せ

休 喫茶・雑貨 日～火曜

P 4台

<https://www.facebook.com/mietsujiya/>



● アクセス 勢和多気ICから約10分



農林漁業体験民宿を開業しませんか？

農林漁業体験民宿開業に、ご関心のある方は、農山漁村づくり課までお気軽にご相談ください。「農林漁業体験民宿開業の手引き」もご用意しています。

【相談窓口】 三重県 農林水産部 農山漁村づくり課 059-224-2518



ええとこやんか三重

三重県移住・交流ポータルサイト「ええとこやんか三重」は、三重県内の移住に関する情報を集めたポータルサイトです。「暮らし・住まい・お仕事」をはじめ、セミナーの情報や体験ツアー・先輩移住者の紹介など様々な情報が収集できます。

あなたの「三重暮らし」実現のため、
お手伝いします！お気軽にご相談ください。

ええとこやんか三重

検索

東京 | ええとこやんか三重移住相談センター

東京では、常設の移住相談センターを設置しています。

場所：東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内

東京都千代田区有楽町 2-10-1

電話：080-9512-5093 E-mail：mie@furusatokaiki.net

開館時間：火～日 10:00 ～ 18:00

定休日：月・祝日・お盆・年末年始

移住相談アドバイザー：清水 ふき
就職相談アドバイザー：坂 年規



大阪・名古屋 | 移住相談デスク

大阪・名古屋では、月1回の移住相談デスクを開催しています。

大阪

毎月第2土曜日に開催！

場所：シティプラザ大阪1階
大阪ふるさと暮らし情報センター内
(大阪市中央区本町橋 2-31)
開館時間：10:00 ～ 18:00

名古屋

毎月第3土曜日に開催！

会場や開館時間については、
地域連携部 地域支援課まで
(電話 059-224-2420)
お問い合わせください。



三重暮らしについてのお問い合わせ

三重県 地域連携部 地域支援課 | 三重県津市広明町 13 番地 059-224-2420 chiiki@pref.mie.jp

県内各地で「地域おこし協力隊」が活躍しています！

「地域おこし協力隊」は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致しその定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

具体的には、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動した方を地方自治体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、地域おこしの支援や住民の生活支援などの各種地域協力活動に従事してもらいながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

県内では、2017（平成 29）年 1 月現在、58 人の協力隊員が 8 市町で活躍し、地域資源を活用した地域おこしや移住相談など、多様な活動を展開しています。農業分野においても、「そばの振興」や「農と福祉の連携」「ブランド野菜の栽培」などに 8 人の協力隊員が活躍しています。

現在、県内各地で隊員の募集がありますので、地域おこし協力隊にご興味のある方は、三重県移住・交流ポータルサイト「ええとこやんか三重」の「おしごと」のページでご確認ください！

【先輩の取組事例】

▶熊野市 村瀬さん：P 19（地域おこし協力隊の活動地域に定住して有機農業）をご覧ください

【相談窓口】

三重県 地域連携部 南部地域活性化推進課 059-224-2195



三重県 新規就農相談窓口

■総合相談窓口（三重県下全域）

公益財団法人三重県農林水産支援センター
担い手育成支援課（就農相談関係）
中間管理課（農地に関する相談関係）

〒515-2316 松阪市嬉野川北町 530 番地
TEL 0598-48-1226 FAX 0598-42-8221
TEL 0598-48-1228 FAX 0598-42-8221

※市町単位の農地のご相談は、各市町農業委員会又は担当課へお問い合わせください。

三重県農林水産部担い手支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地
TEL 059-224-2354 FAX 059-223-1120

■各地域の相談窓口（三重県の機関）

桑名農政事務所
桑名地域農業改良普及センター

〒511-8567 桑名市中央町 5-71
TEL 0594-24-3641 FAX 0594-24-3695

四日市農林事務所
四日市鈴鹿地域農業改良普及センター

〒510-8511 四日市市新正 4-21-5
TEL 059-352-0636 FAX 059-352-0628

四日市農林事務所
四日市鈴鹿地域農業改良普及センター 鈴鹿普及課

〒513-0809 鈴鹿市西条 5-117
TEL 059-382-8665 FAX 059-382-4933

津農林水産事務所
津地域農業改良普及センター

〒514-8567 津市桜橋 3 丁目 446-34
TEL 059-223-5123 FAX 059-223-5151

松阪農林事務所
松阪地域農業改良普及センター

〒515-0011 松阪市高町 138
TEL 0598-50-0556 FAX 0598-50-0623

伊勢農林水産事務所
伊勢地域農業改良普及センター

〒516-8566 伊勢市勢田町 622
TEL 0596-27-5170 FAX 0596-27-5254

伊賀農林事務所
伊賀地域農業改良普及センター

〒518-8533 伊賀市四十九町 2802
TEL 0595-24-8115 FAX 0595-24-8146

熊野農林事務所
紀州地域農業改良普及センター

〒519-4393 熊野市井戸町 371
TEL 0597-89-6125 FAX 0597-89-6138

中央農業改良普及センター
（茶・果樹・花き・畜産関係の相談）

〒515-2316 松阪市嬉野川北町 530 番地
TEL 0598-42-6716 FAX 0598-42-7762

■教育研修機関

三重県農業大学校

〒515-2316 松阪市嬉野川北町 530 番地
TEL 0598-42-1260 FAX 0598-42-5835



みえいろ

三重県の農村暮らし応援ガイドブック | みえいろ

2017（平成 29）年 2 月発行

MIE pref.
三重県

三重県農林水産部担い手支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

059-224-2016 / ninaite@pref.mie.jp